

製品名: PLUNC ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16291**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	BPIFA1 BPIFA1; LUNX; NASG; PLUNC; SPURT; BPI fold-containing family A member 1; Lung-specific
別名	protein X; Nasopharyngeal carcinoma-related protein; Palate lung and nasal epithelium clone protein; Secretory protein in upper respiratory tracts; Trach
遺伝子 ID	51297.0
SwissProt ID	Q9NP55
免疫原	ヒト PLUNC の内部領域から得られた合成ペプチド。

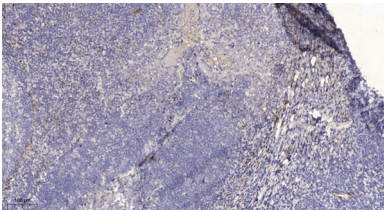
背景

この遺伝子はマウス plunc のヒトホモログであり、マウス遺伝子と同様に上気道および鼻咽頭領域で特異的に発現する。コードされる抗菌タンパク質はグラム陰性菌に対して抗菌活性を示す。上気道における刺激物質に対する炎症反応に関与していると考えられており、非小細胞肺癌における微小転移の検出における分子マーカーとなる可能性もある。3' UTR の選択的スプライシングに起因する複数の転写バリエーションが検出されているが、完全長の変異が判明しているのは3つだけである。[RefSeq 提供、2014年8月]、機能：刺激物質曝露後の気道炎症反応に関与している可能性がある。腫瘍の進行に関連する可能性がある。上気道の自然免疫応答に関与している可能性がある。、誘導：オールトランスレチノイン酸 (ATRA) による。、その他：リポ多糖類に結合する。、PTM：N-グリコシル化されている可能性がある。、類似性：BPI/LBP/Plunc スーパーファミリーに属する。Plunc ファミリー。、細胞内局在：鼻粘液中に存在 (類似性による)。気道上皮細胞の頂端側。鼻粘液中に検出される。、組織特異性：肺、上気道、鼻咽頭領域 (気管および鼻粘膜上皮を含む)。気管気管支組織の分泌管および粘膜下腺に特異的に発現する。気管で最も高い発現を示し、近位 (気管支) 気道から遠位 (細気管支) 気道にかけて徐々に減少する。肺がんおよびその他の一部のがんにも発現する。、

研究分野

がん; 腫瘍バイオマーカー

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。